

令和4年度学校評価表

島根県立出雲高等学校

【学園の指標】
(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園
(2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園
(3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園

(1)自主的な高校生活～自主自立～	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2)活気に満ちた高校生活～文武両道～	①日々の授業や探究学習に前傾姿勢で取り組むとともに、主体的・計画的な家庭学習を行う。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に主体的・協働的に参加し、健全な心身の成長を図る。 ③社会課題や科学技術に触れる機会を積極的に生かし、将来に向かって具体的行動を起こす。
(3)心の触れ合う高校生活～友愛協和～	①気持ちの良い挨拶の交わし合いを心がけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③様々な機会をとらえ、教職員、地域や国内外の人々と触れ合い、成長の糧とする。

学校スローガン & キーワード
自立・協働・挑戦
アイ(～合い、愛)に満ちた見続ける学校
多様な経験の積み重ねを支援

評価の指標(肯定的評価値の割合) A:80%以上(満足できる) B:60～79%(もう少し) C:50～59%(改善が望ましい) D:49%以下(改善が必要)

ミッション	領域	目標 (評価項目)	目標達成のための施策	主たる 担当分掌	評価 指標	自己評価					取組状況と課題	改善策	学校関係者評価	
						目標値 [a] %	評価値 [b] %	達成指数 [b/a]	平均評点 [総和/4]	評価			総合 評価	コメント
						下段は昨年のも								
一 期 を 照 ら す 国 の 宝 を 育 成 す る	環境 整備	○学びやすい 環境の構築 ○働きやすい 環境の構築	(1)教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職	生徒・保護 者アンケート の結果を 参考にした	80	100	125%	3.3	A	不易(至誠・学園の指標・学力向上・進路希望実現)と流行(新学習指導要領・ICT機器活用・インクルーシブ教育・高校魅力化・SSH)の両立を目指し組織の活性化を試みた。	出雲高校のミッションに従って、引き続き失敗を恐れず新しい取り組みに挑戦していく。また、PDCAサイクルを回して検証・改善を目指す。	A	○全体的に見て、生徒・保護者・教職員のどのアンケートをとっても高い数値がでており、総合的に出雲高校の取り組みを高く評価している。 ○教員が所属以外の他分掌・他学年の取り組みについても興味関心を持ち、自分事として学校運営に参加して欲しい。 ○生徒購入のchromebookがwifiに支障なく接続し、学習に有効的に活用できるような環境を構築すべきである。 ○教員が生徒集団にバイアスを持つことなく、失敗が許される環境の構築に努めて欲しい。 ○生徒の可能性を引き出し、学習の結果だけに注目するのではなく、学習ステージや過程における成長を見取るような支援をして欲しい。 ○卒業生会では、学習環境整備のための資金面及び人材面での支援体制を構築しているので積極的に活用して欲しい。
			(2)PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。	総務		80	100	125%	3.3	A	PTA総会が今年も開催できず、残念であった。保護者と共に内容的にも充実した広報誌を作成できた。	PTA総会を来年度こそは開催したい。	A	
			(3)様々な奨学金制度を紹介し、生徒・保護者にその活用を勧める。	図書 文化 情報		80	94.2	118%	3.2	A	奨学金制度の周知、個々の生徒への対応、概ねよくできた。周知が遅かったとの指摘を受けたものもあった。	総務部内の他の業務内容を精選し、少数の担当者に負担が集中している現状を改善する。	A	
			(4)ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。			80	98.0	123%	3.2	A	ホームページは適宜更新しているが、休校時には貴重な連絡手段の一つとしての役割を果たすこととなっている。	個人情報(写真、動画を含む)の管理に留意しつつ、新たな役割を果たす方法を研究したい。	A	
			(5)生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。	保健		80	100	125%	3.5	A	積極的に活用していただき、感謝している。	情報の提供ではタイミングも大切である。質を担保しつつスピード感も大切にしたい。	A	
			(6)学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。			80	98.1	123%	3.3	A	過渡期であり、取り組むべき課題が残った。	現段階で今後どのような環境になるのかははっきりしない。他所と協力しつつ順次進めていきたい。	A	
			(7)清潔で整った校内美化を保つよう、積極的に清掃活動を行う。	事務		80	92.7	116%	3.1	A	清掃活動については消毒作業も含めて校内美化を概ね保つことができた。しかし、廊下の隅にほこりが残っていたり、時間いっぱい取り組むことなどに課題が見られた。	掃除の取りかき方を早くすると共に、自分の仕事が終わった後にも、周囲の状況に目を向けることができるよう、美化委員会などを活用して、指導していく。	A	
			(8)費用対効果を考えて効率的な予算執行を行う。			80	100	125%	3.5	A	コロナ対策や災害復旧への対応も含め、年間を通じて各分掌、教科との連携を図り、より高い効果が得られるよう、計画的、効果的な予算執行に努めた。	限られた予算なので、安全な教育環境の整備に特に配慮するなど今後も費用対効果や優先順位に留意し、適正な予算執行に努めていく。	A	
	人権 尊重 の 精神 の 育成	○自他を尊重 する精神の 育成 ○豊かな人間 性の育成	(9)生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。	生徒	80	94.5	118%	3.2	A	生徒会を中心に主体的に取り組めるような指導はできていた。	生徒に任せすぎて人権上問題があった部分もあり、最終的な教員によるチェックをしっかりと行っていきたい。	A	○生徒及び生徒会からの学校生活についての要望は、教員と生徒との間で話し合いの場を設けて欲しい。ただし、生徒側からも要望があれば教員任せではなく主体的に行動すべきである。 ○課題研究発表会を生徒が主体的に運営しており感心した。 ○自己肯定感の低い生徒には配慮して支援できるようにして欲しい。 ○人権に関して学校生活の中で気になることがあれば、放置せず改善に取り組んでほしい。	
			(10)人権教育に係るホームルーム活動や講演会等の学習をとおして、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。	生徒	80	98.1	123%	3.2	A	講演会等を企画したが、コロナ禍で講演会に保護者への案内が出来なかったことは残念であった。	コロナの状況を見ながら、保護者の参加を再び呼びかけていきたい。	A		
			(11)いじめに関するアンケートを活用し、いじめを許さない意識を醸成する。	教職員自己 評価におけ る肯定的評 価の割合	80	98.1	123%	3.3	A	いじめについて回答した生徒については複数教員で聴き取りを行い、適切に対処できた。	アンケートへの取り組み・対応について、教職員間での差を感じており、共通した対応を徹底していきたい。	A		
			(12)服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとらえて、基本的な生活習慣の確立にむけた指導を行う。		生徒	80	92.7	116%	3.0	A	今年度は生徒主体で服装検査を行った。心得の改定を含め、生徒主体となって実施できていた。遅刻については数は減ったが、十分な指導ができなかった。	コロナ禍ということもあり、全体に対しての指導が難しかったが、来年度は「通信」を作るなど工夫していきたい。		A
	規 律 あ る 生 活 態 度 の 育成	○規範意識の 定着 ○基本的な生活 習慣の確立	(13)部顧問会や大会・遠征等の支援を行い部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。	生徒	80	83.3	104%	2.9	A	昨年度に比べ改善は見られたが、ルールが守られていない部分も見られた。	生徒だけでなく先生方もルールについてきちんと把握できていない部分があるので、周知徹底をしていきたい。	A	○コロナ禍やマスク生活の影響からか、表情やまなざしが読みにくくコミュニケーション能力不足を危惧している。協働性が高まるような取り組みを引き続きお願いしたい。	
			(14)街頭指導や自転車点検等の施策を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。		80	100	125%	3.2	A	4月は多くの事故が起きたが、それ以降は昨年度に比べ少なくなった。	交通安全教育を取り入れていきたい。	A		
			(15)各教科と連携して指導方法の研究を行い、教員の指導力向上と教科指導の充実を図る。		教務	80	81.8	102%	3.0	A	授業互見の実施方法の見直しなど、教科指導力の向上に向けて取り組むべき課題が多数ある。	年度途中から始めた「教科のSS化通信」の発行や校内研修の実施など具体的な取り組みをしていく。		A
			(16)GRITizmノートや休日の自習開放を活用し、自ら学びに向かう意識を高める。		キャリア 教育 学年部	80	90.9	114%	3.1	A	GRITizmノートの活用や自習開放については、昨年度よりも評価が下がった。生徒アンケート評価が下がったことが影響していると思われる。	キャリア教育部だけでなく、学年主任等、様々な立場から利用促進についての啓発をお願いする。また、より使いやすいものとなるよう、GRITizmノートを改訂をする。		A
	確 かな 学 力 の 養成	○基礎・基本 の定着 ○主体的な 学習態度の 育成	(17)3年生の土曜補講・放課後補講を適切に実施し、生徒個々の進路志望の達成に向けた学力向上に役立てる。	キャリア 教育 学年部	80	82.7	103%	3.0	A	3年生の土曜補講、放課後補講について、評価が大きく下がった。	実施形態の大幅な変更も含め、改善に向けて各教科の合意形成を図る。	A	○学力向上への取り組みと進路実績については関心を持って注視しており、進学校としてステータスを保てるよう引き続き努力して欲しい。 ○授業改善の工夫について教員が主体的に取り組もうとしていることに大いに期待する。グローバル社会で活躍できる視野の広い人材を育成して欲しい。	
			(18)大学入学共通テストや各大学の個別試験に関わる情報を研究・整理し、教職員・生徒・保護者に発信する。		80	100	125%	3.3	A	共通テストや大学入試等に関する情報提供については、非常に高い評価を得ている。	より分かりやすい資料提供を目指したい。	A		
			(19)3年間を見通した進路指導計画のもと、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。		キャリア 教育	80	98.2	123%	3.3	A	進路指導計画やPTA土曜講座等での情報提供については、概ね高い評価を得ている。	PTA土曜講座は、より効果的なオンライン配信の方法を目指すとともに、次年度に向けては対面とオンラインの両輪での実施を目指したい。		A
			(20)進路希望調査、PDGzセミナー、久徴セレンディピティなどを行い、キャリア教育に対する意識の高揚に努める。			80	100	125%	3.5	A	キャリア教育に対する意識の高揚については、非常に高い評価を得ている。	久徴会青年部等とも協力しながら、より生徒の意識を高めたい。		A
	進 路 目 標 の 実現	○望ましい 職業観の 育成 ○能力・適性 の開発	(21)個別添削、小論文指導や面接指導を組織的にを行い、進路実現を支援する。	教育 開発	80	94.5	118%	3.2	A	面接指導等の組織化と進路実現のためのきめ細かい指導については、概ね高い評価を得ている。	より効果的な指導体制を構築したい。	A	○課題研究成果発表会を参観して、課題の着眼点や熱心な取組状況に感心した。	
			(22)各種研修や課題研究などを通して、SSH事業と科学系人材・グローバル人材育成のための取り組みの充実を図る。		80	96.4	121%	3.3	A	イベント関係の実施に制限がかり、グローバルに関する取組がSSH事業の加速化につながっていない。また課題研究において、科学性・論理性に基づいていないものが散見された。	関西先端科学研修、シンガポール・サンタクラ海外研修等を実施する。また、新規事業としてデータサイエンスを導入し、課題研究の活性化を図る。	A		
			(23)危機管理マニュアルにより災害・事故発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。		管理職	80	100	125%	3.3	A	新型コロナウイルス感染拡大防止については学級閉鎖の基準を設定し対応することができた。災害・交通事故・いじめ・ハラスメント等に関しては関係分掌・学年会と協働して適切に対応できた。	新型コロナウイルス感染症対策については、県や国の動向を注視しつつ、平時の教育活動の実践に移行できるよう努力する。その他の危機管理については、個人ではなくチームで引き続き対応していく。		A
			(24)学校防災計画を作成し、計画的避難訓練を実施することで生徒・教職員への周知徹底を図る。		総務	80	98.1	123%	3.3	A	防災避難訓練と防災ホームルーム活動を同日開催することにより、生徒の防災意識を高める事ができた。	防災ホームルーム活動の内容を毎年よりよいものへと改善していきたい。		A
	安 全 対 応 能 力 の 向上	○危機管理 体制の確立 ○危機回避・ 対応能力の 向上			80	92.9	116%	3.2	A			A	○コロナ禍で中止となったが、県外の研修は外から自分自身や郷土を見直す良いきっかけとなり大切な経験である。	
					80	94.7	118%	3.3	A			A		